

性差を考慮した 研究開発の推進

～ 基礎から臨床への架け橋 ～

2025年 12月 6日(土)

13:30～15:00

ステーションコンファレンス東京
6階 602C/602D

性差が考慮されるべき研究や開発プロセスで性差が考慮されないと、社会実装の段階で不適切な影響を及ぼすおそれもあるため、AMEDでは、体格や身体の構造と機能の違いなど、性差を適切に考慮した研究・技術開発の実施に向けて取組を進めています。

シンポジスト

(50音順)

大隅 典子

(日本学術振興会 理事/東北大学大学院 医学系研究科 教授)

黒川 洵子

(静岡県立大学 薬学部 教授/日本性差医学・医療学会 理事)

小泉 周

(北陸先端科学技術大学院大学 副学長)

佐々木 成江

(東北大学 DEI推進センター 教授)

高田 龍平

(東京大学附属病院 薬剤部 教授)

鶴見 晴子

(社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院 診療部診療科医科診療係)

溝上 顕子

(九州大学大学院 歯学研究院 准教授)

山浦 克典

(慶應義塾大学 薬学部 教授/日本性差医学・医療学会 評議員)

日本臨床薬理学会第46回学術集会総会へのご参加は

下記、日本臨床薬理学会第46回学術集会総会ホームページよりお申し込みください。

<https://www.congre.co.jp/jscpt2025/registration.html>

性差を考慮した研究開発の推進

～ 基礎から臨床への架け橋 ～

性差としては、「生物学的性（SEX）」と「社会的・文化的性（GENDER）」の両視点を持つことが重要であり、AMEDでは事業共通的な取り組みを段階的に進めていきます。令和8年度公募要領雛形においては、まずは「生物学的性（SEX）」に着目し、研究開発提案書に関連する記載項目を新設しました。本件に関する関連情報については、以下のウェブサイトをご参照ください。<https://www.amed.go.jp/program/list/18/01/seisakenkyu.html>

開会趣旨 (13:30 - 13:35)

『性差を考慮した研究開発の推進に関するAMEDの取組について』

平川 誠也 (AMED 研究開発戦略推進部 研究開発企画課 課長)

講演 (13:35 - 14:15)

座長 高田 龍平 (東京大学附属病院 薬剤部 教授)

山浦 克典 (慶應義塾大学 薬学部 教授／日本性差医学・医療学会 評議員)

演者 『基礎研究から考える性差視点の重要性』

溝上 顕子 (九州大学大学院 歯学研究院 准教授)

『薬剤使用にかかわる身体の性差とそのメカニズム』

黒川 洵子 (静岡県立大学 薬学部 教授／日本性差医学・医療学会 理事)

指定発言 (14:15 - 14:25)

大隅 典子 (日本学術振興会 理事／東北大学大学院 教授)

小泉 周 (北陸先端科学技術大学院大学 副学長)

佐々木 成江 (東北大学 DEI推進センター 教授)

鶴見 晴子 (社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院 診療部診療科医科診療係)

パネルディスカッション (14:25 - 15:00)

ファシリテーター 高田 龍平、山浦 克典

ディスカッサント 大隅 典子、黒川 洵子、小泉 周、
佐々木 成江、鶴見 晴子、溝上 顕子

